

令和3年7月 東京地区百貨店売上高概況

令和3年8月23日

I. 概況

1. 売上高総額	1,061億円余
2. 前年同月比(増減率)	8.0%(5か月連続プラス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭12.0%(90.4%)：非店頭-19.2%(9.6%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 24店 (令和3年6月対比±0店)
5. 総店舗面積	803,890㎡ (前年同月比：-2.5%)
6. 総従業員数	15,689人 (前年同月比：-4.5%)
7. 3か月移動平均値	12-2月 -21.0%、1-3月 -12.4%、2-4月 26.5%、 3-5月 63.6%、4-6月 51.3%、5-7月 16.3%

【参考】 令和2年7月の売上高増減率は-27.9% (店舗数調整後)

【特徴】

- (1) 7月の東京地区は、入店客数(17.6%増/4か月連続)、売上高(8.0%増/5か月連続)ともに前年実績を上回った。一方、前々年(2019年)対比では、売上高(22.1%減)・入店客数(37.3%減)のいずれもコロナ前の水準には戻っておらず、厳しい商況は継続している。
- (2) 商品別では、主要5品目のうち家庭用品(8.9%減)を除く4品目でプラスとなった。衣料品(7.2%増/2か月ぶり)は、プレセールの拡大や品不足の影響で、クリアランスが目立った盛り上がりはなかったが、中旬以降の高気温を受け、Tシャツ、サマーニット、ワンピースなど盛夏商材に動きが見られた。身のまわり品(10.5%増/5か月連続)でも、日傘や帽子などの防暑アイテムやサンダルのほか、特選商材が引き続き好調を維持している。
- (3) 食料品(7.1%増/5か月連続)は、東京五輪開催もあり、イエナカ需要で菓子、惣菜、土用丑の日の鰻、和洋酒などが好調であった。家具(16.6%減)、家電(20.6%減)は、昨年からの巣ごもり需要が一巡しマイナスとなった。美術・宝飾・貴金属(38.1%増)は高級時計を中心に引き続き高伸し、売上全体を牽引した。
- (4) コロナ禍で変容する生活様式に即した品揃えやサービスの提供に各社注力する中、特に中元商戦では、前年高伸したEC受注が更に高伸し、店頭のマイナス分を補い堅調に推移した。
- (5) 8月中間段階の商況は、コロナ第5波の感染急拡大により、入店客数も減少に転じ、売上高7.4%減(8/16)で推移している。前々年比でも約38%減と先月よりマイナス幅が広がり、一段と厳しさが増している。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比 ±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数17店舗)
①増加した：11店、②変化なし：3店、③減少した：3店
- (3) 7月歳時記(中元、クリアランス、夏休み)の売上(同上/有効回答数14店舗)
①増加した：3店、②変化なし：6店、③減少した：5店

東京地区百貨店 売上高速報 2021年7月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	106,132,985	100.0	8.0
紳士服・洋品	6,887,963	6.5	6.8
婦人服・洋品	13,712,663	12.9	8.0
子供服・洋品	1,366,772	1.3	0.7
その他衣料品	1,609,743	1.5	7.4
衣 料 品	23,577,141	22.2	7.2
身のまわり品	15,163,734	14.3	10.5
化粧品	7,744,220	7.3	1.4
美術・宝飾・貴金属	11,346,243	10.7	38.1
その他雑貨	3,754,663	3.5	7.9
雑 貨	22,845,126	21.5	18.2
家 具	1,249,481	1.2	-16.6
家 電	581,545	0.5	-20.6
その他家庭用品	2,801,817	2.6	-1.8
家 庭 用 品	4,632,843	4.4	-8.9
生 鮮 食 品	4,857,182	4.6	-1.3
菓 子	9,066,933	8.5	13.9
惣 菜	7,083,309	6.7	17.6
その他食料品	13,480,805	12.7	1.3
食 料 品	34,488,229	32.5	7.1
食 堂 喫 茶	1,536,043	1.4	15.7
サ ー ビ ス	1,395,839	1.3	-6.8
そ の 他	2,494,030	2.3	-19.4

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

		対前年増減(-)率(%)
商 品 券	2,634,904 千円	-6.7
従 業 員 数	15,689 人	-4.5
店 舗 面 積	803,890 m ²	-2.5
営 業 日 数	31.0 日	前年 31.0 日

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、身のまわり品、雑貨、食料品が5か月連続、衣料品が2か月ぶりにプラスとなったが、家庭用品は5か月ぶりにマイナスとなった。その他の品目は、美術・宝飾・貴金属が6か月連続、婦人服・洋品、菓子、惣菜が5か月連続のプラスとなったが、家電が8か月ぶりにマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	8.0	—	5か月連続プラス
紳士服・洋品	6.8	0.4	2か月ぶりプラス
婦人服・洋品	8.0	1.0	5か月連続プラス
子供服・洋品	0.7	0.0	2か月ぶりプラス
その他衣料品	7.4	0.1	2か月ぶりプラス
衣料品	7.2	1.6	2か月ぶりプラス
身のまわり品	10.5	1.5	5か月連続プラス
化粧品	1.4	0.1	2か月ぶりプラス*
美術・宝飾・貴金属	38.1	3.2	6か月連続プラス*
その他雑貨	7.9	0.3	2か月ぶりプラス*
雑貨	18.2	3.6	5か月連続プラス
家具	-16.6	-0.3	2か月ぶりマイナス
家電	-20.6	-0.2	8か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-1.8	-0.1	5か月ぶりマイナス
家庭用品	-8.9	-0.5	5か月ぶりマイナス
生鮮食品	-1.3	-0.1	2か月連続マイナス*
菓子	13.9	1.1	5か月連続プラス*
惣菜	17.6	1.1	5か月連続プラス*
その他食料品	1.3	0.2	5か月連続プラス*
食料品	7.1	2.3	5か月連続プラス
食堂喫茶	15.7	0.2	5か月連続プラス
サービス	-6.8	-0.1	2か月連続マイナス
その他	-19.4	-0.6	5か月連続マイナス
商品券	-6.7	-0.2	2か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・長柴 まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>